

平成十八年度 夏季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「夏」

期間 平成十八年五月一日～七月末

投句数 二、九〇三句

特選三句

天

泰山木一花を仰ぐ修行僧

埼玉県日高市 落合清子

地

全山を読経のごとき蝉時雨

神奈川県鎌倉市 土山忠滋

人

しらじらと夜明けの蓮の花立てり

神奈川県横浜市 葭谷健一

入選句

一般の部

江ノ電に乗ればたちまち初夏の風

東京都練馬区

山根眞五

夜は夜の海風白ふ夏越祭

神奈川県鎌倉市

田畑洋子

竹の庭薰風だけが通り過ぐ

神奈川県藤沢市

岡野憲之

鎌倉の月夜に鳴くやホトトギス

神奈川県横浜市

山下省三

蓮開く源平の池今昔

神奈川県鎌倉市

遠藤金子

誘われて待宵草のそよぐ浜

神奈川県鎌倉市

友成節子

旅靴真中に置く夏座敷

神奈川県横浜市

山口道子

月見草一番星の上るころ

神奈川県横浜市

野口常子

石仏へあぢさゝみの磴のぼりけり

神奈川県横浜市

吉賀一夫

繰り言は言うまじ紅いばらの前

神奈川県鎌倉市

小室房子

草笛は我が青春の一ページ

神奈川県鎌倉市

九里良子

薰風や結願となる円覚寺

神奈川県秦野市

遠藤こと子

風薰る極楽寺坂力餅

神奈川県横浜市

草場博幸

つゆ空に伏目がちなり阿弥陀仏

神奈川県横浜市

横坂泰男

江ノ電の窓に立夏の海光る

神奈川県平塚市

吉田辰恵

(順不同)

入選句

子供の部

公園で蝉の一生終わりけり

新潟県加茂市

坪谷春輝

大仏は暑い夏でも座禅する

神奈川県茅ヶ崎市

若林倫広

長谷観音夏の金色こうごうしい

群馬県伊勢崎市

山形敦己

ほうこくじ青葉がいつぱいうつくしい

神奈川県横浜市

太田百映

こいのぼりてんにむかっておよいでる

神奈川県鎌倉市

高田まさゆき

夕立が静かな街をだきしめる

神奈川県鎌倉市

富田夏菜

江ノ島の夕焼け空に白い雲

群馬県伊勢崎市

島田光

夏の日の鎌倉のこといつまでも

神奈川県川崎市

米山青空

大仏の背中中あいてる涼しそう

神奈川県三浦市

鈴木ゆずか

紫陽花の向こうに見えるは海と街

神奈川県川崎市

荻原奈々

なつのそらよりともさまがねむってる

神奈川県横浜市

斉藤駿涼

源氏池蓮のつぼみも開き出す

千葉県市川市

波多絵理奈

鎌倉にすずしきはこぶ浜の風

神奈川県横浜市

金子愛美

夏休み始まったけどもう終わり

神奈川県横浜市

水野真帆

鯉のぼりフワリふわりと空を舞う

宮城県栗原郡

熊谷菜穂子

(順不同)